

論文名：成人先天性心疾患患者における予定外入院の現状（要約）

新潟大学大学院医歯学総合研究科

氏名 根岸 潤

---

目的：本研究の目的は予定外入院を要した成人先天性心疾患患者の臨床的特徴、予後を明らかにすること。

方法：2005 年から 2009 年に国立循環器病研究センターに予定外入院した 18 歳以上の先天性心疾患患者を後方視適に検討した。

結果：期間中に 959 人の成人先天性心疾患が 1761 回入院した。このうち 145 人（15%）が 239 回の予定外入院を要した。年齢は中央値 27 歳、54%が男性であった。30 歳未満が 58%と半数以上を占めた。基礎心疾患はファロー四徴、フォンタン術後、アイゼンメンガー症候群が多く、複雑先天性心疾患が 79%を占めた。予定外入院の原因は不整脈、心不全、感染症、出血・血栓関連の順に多かった。入院期間は中央値 23 日、48 人で 2 回目の予定外入院を要し、合計 13 人が死亡した。心不全入院を要した患者は入院期間が長く、再入院率・死亡率が高かった。不整脈および出血・血栓で入院した患者では再入院率は高かったが死亡率は高くなかった。全体では 1 年生存率は 98%、3 年生存率は 91%で、予定外再入院なしでの生存率は 1 年 77%、3 年 58%であった。

結論：予定外入院を要した成人先天性心疾患患者の現状および臨床的特徴を明らかにした。遠隔期合併症（不整脈、心不全、感染症、出血・血栓）への対策が術後 QOL 向上に繋がるが、個々の病態の差による詳細な検討が必要である。